

大会注意事項(中学)

2023年度版

- ① 大会でベンチに入れる人員は、登録されユニホームを着用した監督、コーチ、選手及びユニホームを着用しないチーム代表者(引率責任者)、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)の各1名とする。
熱中症対策として、保護者(女性)2名以内をベンチに入れることができる。
- ② ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。攻守は役員または当該試合の球審立会いのもと、両チームの主将により攻守を決定する。
- ③ **打順表の提出は、当該試合の開始予定時刻の30分前までに、監督・主将が本部に提出し、照合を受け、攻守を決定すること。**
- ④ ベンチ内での電子機器(携帯電話・パソコン等)及び携帯マイクの使用を禁止する。
メガホンは1個に限り使用を認める。
- ⑤ 試合は7回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない事とする。ただし、決勝は1時間40分とする。
正式試合の成立は4回完了時とするが、4回以前でも規定時間に達したならば、試合は成立する。
7回を完了時又は制限時間を過ぎて同点の場合は、延長戦は行わず、タイブレーク方式を行う。無死1・2塁
継続打順で最大2イニングまで行い、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決する。
ただし、決勝戦にかぎり抽選を行わず勝敗が決するまでタイブレークを続ける。
得点差によるコールドゲームはすべての試合において**4回10点差、5回以降7点差**とする。
- ⑥ 抗議のできるものは、監督か当該プレーヤーとする。
監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。なお、小走りでスピーディーに行うこと。
- ⑦ タイム制限・・・監督が、1試合に投手のところに行ける回数は3回とする。
なお、特別延長戦は1イニングに1回行くことができる。攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。
なお、特別延長戦となった場合は、1イニングに1回とする。
捕手を含む内野手が1試合に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。
なお、特別延長戦となった場合は1イニングに1回行くことができる。
- ⑧ 監督不在でも試合は認めるが、代理の場合は、登録されたコーチが「代理」と必ず打順表に明記すること。
- ⑨ 投球数100球以内の投手が他の守備範囲についた場合、再登板を認める。
- ⑩ 金属・ハイコン(複合)バットはJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認ものに限る。
- ⑪ **1. 投手のサングラス使用を認める。ただし、ミラーレンズは除く。**
2. 野手がサングラスを庇の上に乗せることを認める。
3. 後付けフレアグリップ使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。
- ⑫ スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。なお、運動靴でもよいこととする。
- ⑬ 打者、次打者、走者は両側にイヤーフラップのついたSGマークの入った連盟公認の両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。なお、ベースコーチも着用すること。
- ⑭ 監督、コーチ、選手は全員同色、同形、同意匠のユニホーム、帽子、同色のアンダーシャツ、同形同色のストッキングでなければならない。ただし、合同チームの場合はこの限りではない。
- ⑮ 打者は速やかにバッタースボックスに入ること。なお、サインはバッタースボックス内で見ること。
また、次打者は必ず次打者席に入ること。投手も必ず実行すること。
- ⑯ 守備の時間が長い場合(概ね20分)には健康維持を考慮し、審判の判断で給水タイムを設ける事とする。
(試合時間に入れない)
- ⑰ 詳細の運営規則・競技規則は、当連盟発行の「競技運営に関する規則」「大会特別規則」「審判長注意事項」による。